

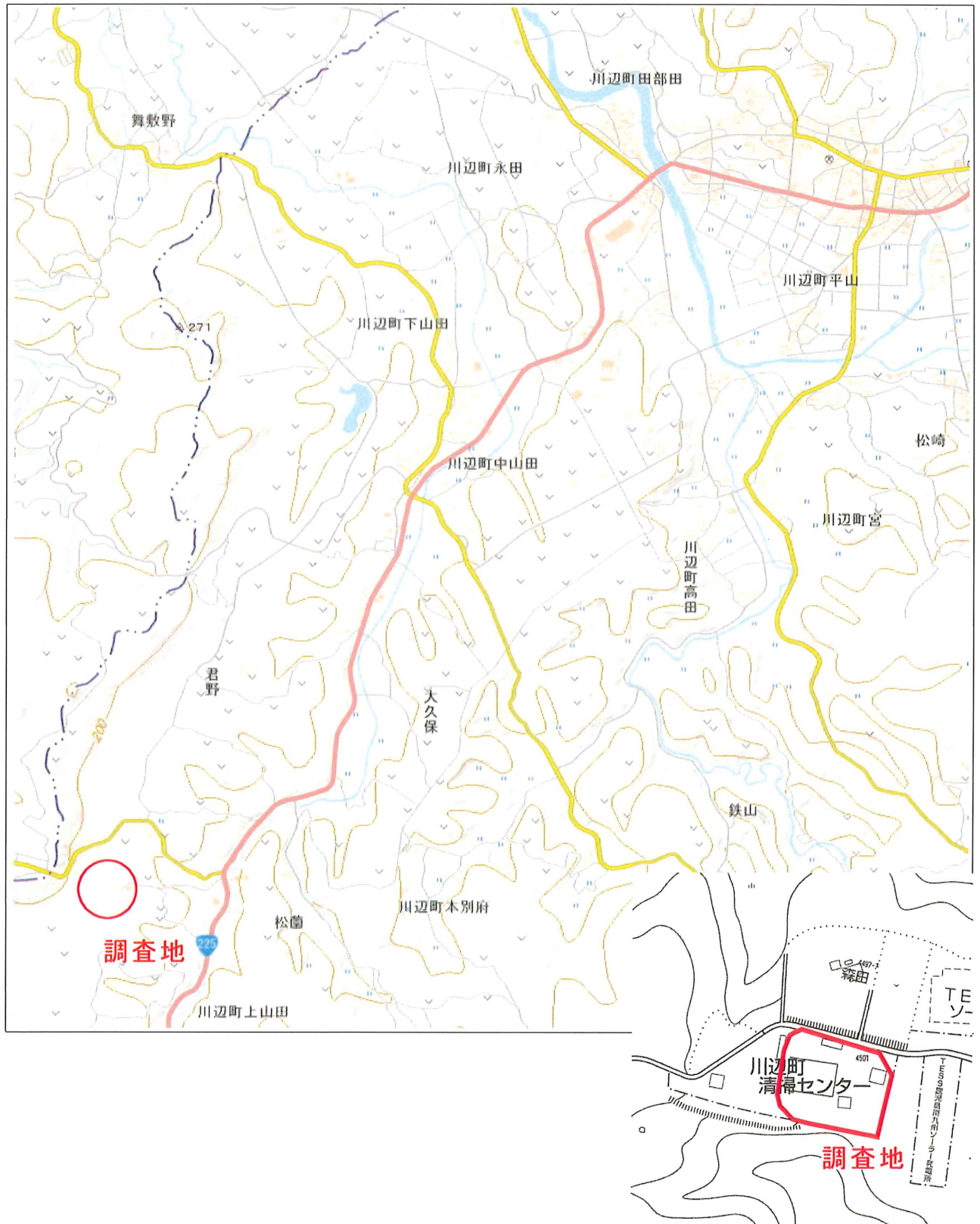
川辺清掃センター解体工事に伴う
事前調査及び設計業務 地歴調査報告書

令和6年9月

株式会社環境技術研究所
日鉄テクノロジー株式会社



調査地案内図



拡大図

目 次

1. 調査概要	1
2. 調査方法	2
3. 調査結果	3
3-1 既存資料調査結果	3
3-2 ヒアリング調査結果	17
3-3 現地踏査結果	19
4. 評価	26
4-1 まとめ	26
4-2 土壌汚染のおそれが生じた時期	27
4-3 土壌汚染のおそれの評価	27

< 巻末資料 >

1. 提供図面
2. 届出資料
3. 薬品リスト
4. 公図・登記簿謄本
5. 閉鎖登記簿謄本
6. 住宅地図・空中写真
7. 川辺清掃センターパンフレット
8. 川辺町郷土史・川辺町風土記
9. 鹿児島県HP(土壌汚染区域指定情報)
10. 事前調査結果
11. ヒアリング調査票
12. チェックリスト

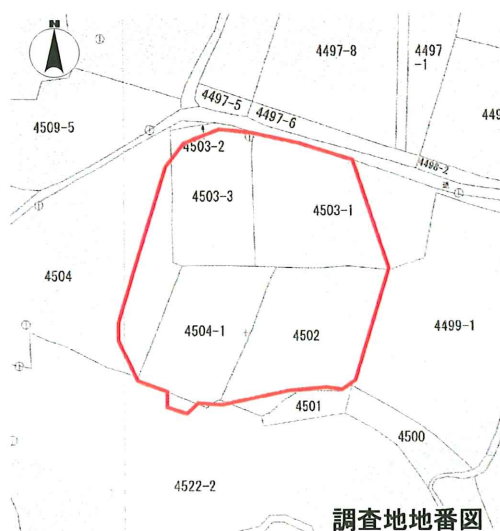
1. 調査概要

1-1 調査名

川辺清掃センター解体工事に伴う事前調査及び設計業務 地歴調査

1-2 調査地

地番：鹿児島県南九州市川辺町上山田 4502 他 5 筆 面積：4,421.9m²



地番	地目	面積(m ²)
南九州市川辺町上山田4502	宅地	1,316.00
南九州市川辺町上山田4503-1	宅地	1,620.36
南九州市川辺町上山田4503-3	宅地	886.63
南九州市川辺町上山田4504	雑種地	3,356.00
南九州市川辺町上山田4504-1	宅地	991.00
南九州市川辺町上山田4522-2	雑種地	6,605.00

1-3 調査期間

明治 26 年(1893)～令和 6 年(2024)

1-4 調査実施期間

令和 6 年 6 月 20 日～9 月 30 日

1-5 調査目的

川辺清掃センターの解体計画があり、土壤汚染対策法に基づく土壤汚染状況調査を実施する必要がある。

本業務は地歴調査を行うことにより、有害物質の使用状況等と把握し、調査対象となる有害物質等ごとの土壤汚染のおそれの区分を選定する。

1-6 適用法令等

本調査は、以下の法律等を適用して実施した。

- ・「土壤汚染対策法」(平成 14 年 5 月 29 日 法律第 53 号)
- ・「土壤汚染対策法に基づく調査及び措置に関する
ガイドライン(改訂第 3. 1 版)」(令和 4 年 8 月)

1-7 発注機関

南九州市役所 市民生活課 生活衛生係

〒 897-0215 南九州市川辺町平山 3234

TEL : 0993-56-1111 FAX : 0993-56-1144

1-8 調査実施機関

株式会社環境技術研究所

〒 550-0011 大阪市西区阿波座 1-3-15

TEL : (06)6532-2837 FAX : (06)6532-9025

日鉄テクノロジー株式会社【指定調査機関指定番号 2003-8-2003】

瀬戸内事業所 環境技術部 環境技術室

〒 671-1123 兵庫県姫路市広畑区富士町 1 番地

TEL : (079)278-5594 FAX : (079)278-5020

担当 : 山田匡興 (技術管理者番号 第 0000174 号)

2. 調査方法

本調査では、既存資料調査、ヒアリング調査、現地踏査を実施し、これらの結果から土壌汚染の可能性について評価した。

本調査において収集及び提供を受けた資料を以下に示す。

- ・川辺町郷土史(1976)

- ・川辺町風土記(2006)

- ・登記簿謄本・公図

- ・住宅地図(ゼンリン)

平成 3 年(1991) 平成 13 年(2001) 平成 22 年(2010) 令和 3 年 (2021)

- ・空中写真(日本地図センター)

昭和 22 年(1947) 昭和 38 年(1963) 昭和 49 年(1974) 昭和 56 年(1981)

平成 4 年(1992) 平成 9 年(1997) 平成 18 年(2007)

- ・届出資料

水濁法届出資料、大防法届出資料、消防法届出資料、PRTR届出資料

ダイオキシン類特措法届出資料

- ・その他提供資料

薬品リスト、川辺清掃センターパンフレット、建物図面、排水経路図

- ・事前調査結果資料

- ・鹿児島県ホームページ 土壌汚染指定区域情報

3. 調査結果

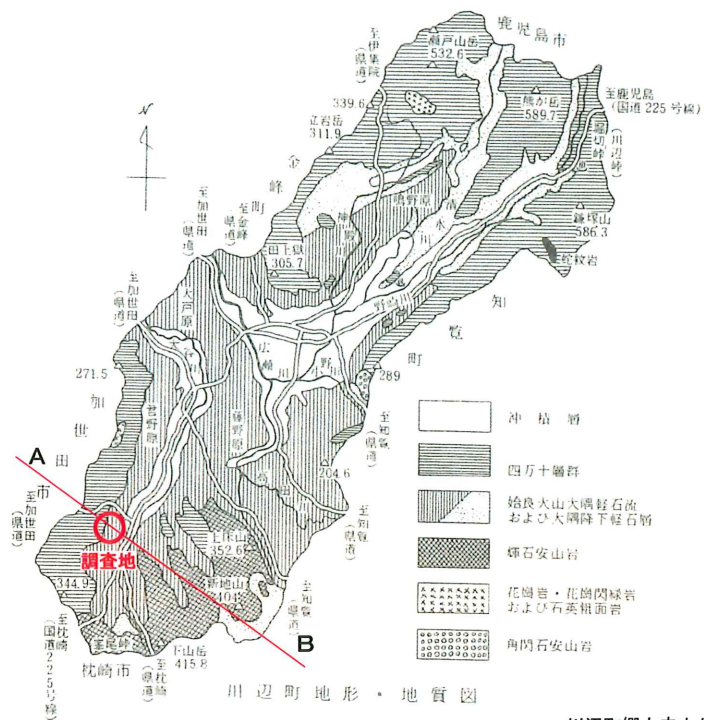
3-1 既存資料調査結果

3-1-1 地形地質概要

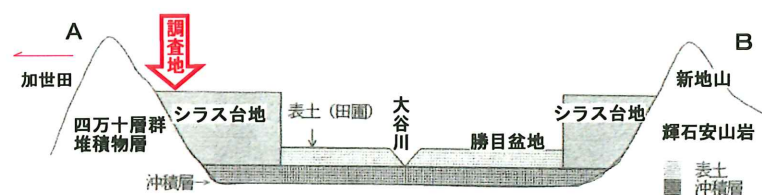
調査地は南さつま市との境界部の山地に近いシラス台地上に位置する。

周辺の地質は、中生代 四万十層群の堆積物層を基盤としており、その後の火山活動で安山岩が、さらに始良火山による火山灰（シラス）が分布する構造となっている。

周辺の地形は、四万十層群による山と安山岩の山に挟まれた山間地の盆地に火山灰が堆積し、大谷川の浸食により勝目盆地が形成された地形となっている。調査地はシラス台地に位置している。図 3-1-1 に地質図を示す。



川辺町郷土史より



川辺町風土記の挿絵を一部加工

図 3-1-1 調査地周辺の地質図

3-1-2 調査地の利用状況

調査地範囲に関する土地の登記簿謄本、住宅地図、空中写真による土地の利用状況を表 3-1-1 にまとめる。

1) 土地登記簿

個人所有の農地・山林が昭和 48 年～平成元年にかけて川辺町(現 南九州市)の所有となって、現在に至っている。地目は畑・山林→宅地・畑・雑種地である。

2) 住宅地図

平成 3 年では空欄であったが、平成 13 年以降は清掃センターとなって現在に至っている。

3) 空中写真

昭和 56 年までは農地・山林であったが、平成 4 年に建設工事が認められ、平成 9 年以降は清掃センターとなって、現在に至っている。



空中写真 昭和56年(1981)
調査地範囲は山林と農地である。



空中写真 平成4年(1992)
調査地範囲は清掃センターの
建設工事中である。



空中写真 平成18年(2006)
調査地範囲は清掃センターである。

図 3-1-2 空中写真抜粋

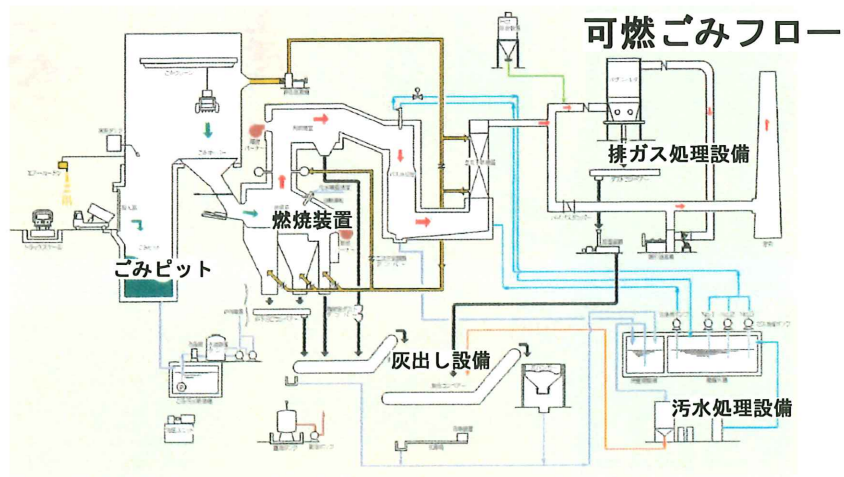
表3-1-1 資料等調査結果一覧表

	地番	地目	M26 (1893)	M31 (1898)	M42 (1909)	S6 (1931)	S7 (1932)	S11 (1936)	S22 (1947)	S31 (1956)	S38 (1963)	S40 (1965)	S41 (1966)	S44 (1969)	S45 (1970)
登記簿	4502	畑→山林	地番4502	↔	↔				↔			↔	↔	↔	↔
				髙坂裁衛	髙坂村恵				髙坂友次郎			髙坂宮盛	髙坂節子 他		森田行雄
	4503-1	畑→山林	地番4503 吉嶺フチ				吉嶺清一	髙坂友次郎				↔	↔	合筆	森田行雄
												髙坂宮盛	髙坂節子 他		
	4505	畑	地番4505 吉嶺フチ				吉嶺清一	髙坂友次郎				髙坂宮盛	髙坂節子 他		
登記簿	4504	畑→雑種地	地番4504	↔	↔				↔			↔	↔	↔	↔
				髙坂裁衛	髙坂村恵					農林省		髙坂宮盛	髙坂節子 他		
	4504-1	畑→宅地	地番4504-1	↔	↔				↔						
				髙坂裁衛	髙坂村恵					農林省→ 恒吉畛丸					
登記簿	4522-2	山林→雑種地	地番4522-2	↔	↔										
				髙坂裁衛	髙坂村恵	髙坂マサ									
空中写真										農地		農地			

	地番	地目	S48 (1973)	S49 (1974)	S50 (1975)	S56 (1981)	H1 (1989)	H3 (1991)	H4 (1992)	H9 (1997)	H13 (2001)	H18 (2006)	H19 (2007)	H22 (2010)	R3 (2021)	R6 (2024)
登記簿	4502	山林→宅地					↔									
		森田行雄					川辺町						南九州市			(現在に至る)
	4503-1	山林→宅地	地番4503-1 森田行雄				↔									
							川辺町						南九州市			(現在に至る)
	4503-3	山林→宅地			分筆 地番4503-3		↔									
							川辺町						南九州市			(現在に至る)
登記簿	4504	畑→雑種地	↔													
		川辺町														(現在に至る)
	4504-1	畑→宅地					↔									
		恒吉畛丸					川辺町						南九州市			(現在に至る)
登記簿	4522-2	山林→雑種地	↔													
		川辺町														(現在に至る)
住宅地図								空欄			清掃 センター			清掃 センター	清掃 センター	
空中写真				山林 農地		山林 農地			建設工事中	清掃 センター		清掃 センター				

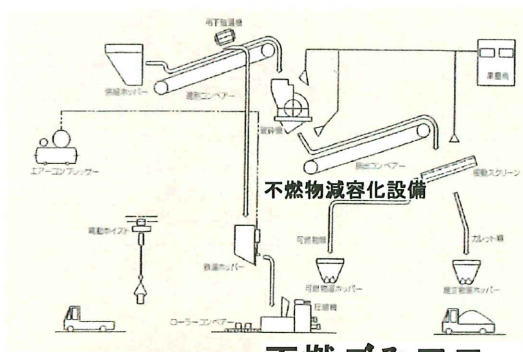
3-1-3 川辺清掃センターについて

調査地には川辺清掃センターがあり、平成6年～令和6年まで稼働していた。
当該施設では一般ごみ(可燃ごみ・不燃ごみ)の収集・処理を行っていた。
可燃ごみは焼却し、不燃ごみは資源ゴミ等に分別処理していた。



■施設の概要

施設名：川辺町ごみ処理場
所在地：鹿児島県川辺郡川辺町上山田4501番地
敷地面積：5,580.6㎡
建築面積：1,294.46㎡
処理方式：機械化バッチ燃焼式
処理能力：20t/日(10t/6t×2基)
工 期：平成1年8月～平成9年3月



不燃ごみフロー



川辺町ごみ処理場パンフレットの抜粋

図 3-1-3 川辺清掃センター模式図

3-1-4 特定有害物質の使用状況

行政届出資料、薬品リスト、事前調査の結果から、有害物質の使用状況を調べた。

その結果、第二種特定有害物質 6 項目(カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、水銀及びその化合物、セレン及びその化合物、鉛及びその化合物、砒素及びその化合物)及びダイオキシン類の検出が認められた。(表 3-1-2 参照)

表3-1-2 使用履歴がある有害物質一覧表

	有害物質	届出施設	P R T R	薬品リスト	事前調査	備 考
第一種特定有害物質	四塩化炭素	—	—	—	—	
	1, 2-ジクロロエタン	—	—	—	—	
	1, 1-ジクロロエチレン	—	—	—	—	
	1, 2-ジクロロエチレン	—	—	—	—	
	1, 3-ジクロロプロペン	—	—	—	—	
	ジクロロメタン	—	—	—	—	
	テトラクロロエチレン	—	—	—	—	
	1, 1, 1-トリクロロエタン	—	—	—	—	
	1, 1, 2-トリクロロエタン	—	—	—	—	
	トリクロロエチレン	—	—	—	—	
	ベンゼン	—	—	—	—	
	クロロエチレン	—	—	—	—	
第二種特定有害物質	カドミウム及びその化合物	—	—	—	○	
	六価クロム化合物	—	—	—	○	
	シアン化合物	—	—	—	—	
	水銀及びその化合物	—	—	—	○	
	セレン及びその化合物	—	—	—	○	
	鉛及びその化合物	—	—	—	○	
	砒素及びその化合物	—	—	—	○	
	ふっ素及びその化合物	—	—	—	—	
第三種特定有害物質	ほう素及びその化合物	—	—	—	—	
	シマジン	—	—	—	—	
	チオベンカルブ	—	—	—	—	
	チウラム	—	—	—	—	
	P C B	—	—	—	—	
	有機りん化合物	—	—	—	—	
	ダイオキシン類	○	○	—	—	

(1) 届出施設

行政へ届出されている資料から、有害物質の使用状況を表 3-1-3 にまとめた。本調査地には有害物質使用特定施設はなかった。各施設の配置は図 3-1-4 に示す。

表3-1-3 届出施設一覧表

法律	施設名称	場所	使用期間	使用物質	特定有害物質	備考
水質汚濁防止法	焼却炉 排水処理施設	焼却炉棟	H4～	—	—	排水は冷却水として循環利用している。
大気汚染防止法	焼却炉	焼却炉棟	H4～	A重油	—	—
消防法 (危険物施設)	危険物取扱所	ダイオキシン類 処理プラント	H14～	ナトリウム	—	ナトリウムと焼却灰を混合・反応させ無害化する
	危険物貯蔵所	ナトリウム保管庫	H14～	ナトリウム	—	ドラム缶で貯蔵
	危険物貯蔵所	屋外燃料タンク	H5～	A重油	—	地上式屋外タンク
PCB特措法	対象施設なし	—	—	—	—	—
ダイオキシン 特措法	焼却炉	焼却炉棟	H12～	—	—	—
	ろ過集塵装置	焼却炉棟	H12～	消石灰	—	—

(2) PRTR、薬品リスト

PRTRではダイオキシン類の排出と移動が認められた。薬品リストからは特定有害物質の使用は認められなかった。

表3-1-4 PRTR届出資料
(対象物質：ダイオキシン類)

年	大気排出量 mg-TEQ/年	廃棄物含有量 ng-TEQ/年
H22	37	546
H23	67	720
H24	23	370
H25	104	176
H26	17	635
H27	16	195
H28	3	510
H29	26	372
H30	19	382
H31	26	828
R2	86	862
R3	45	419
R4	30	564
R5	82	890

表3-1-5 薬品リストに記載された有害物質一覧表

使用設備	薬品名	特定有害物質	用途
排水処理設備	塩化第二鉄	—	排水の凝集剤
	苛性ソーダ	—	排水のpH調整剤
	硫酸	—	排水のpH調整剤
	凝集助剤	—	排水の凝集剤(ポリマー)
灰出し設備	重金属安定剤(キレート)	—	飛灰中の重金属が溶出しないように固形化
石灰サイロ	珪藻土入り生石灰	—	集塵装置のバグフィルタで使用

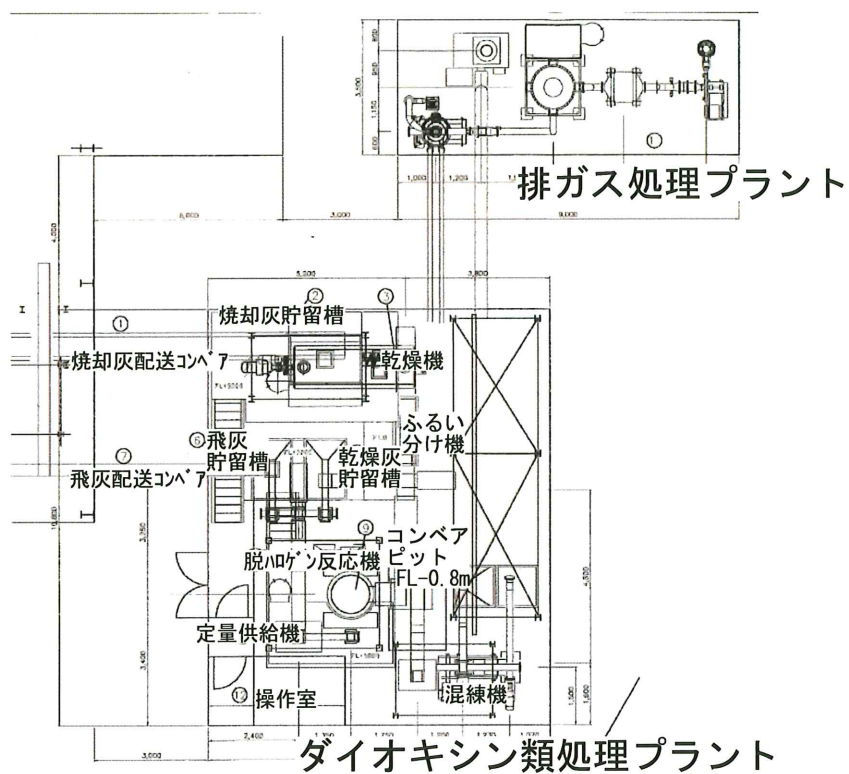
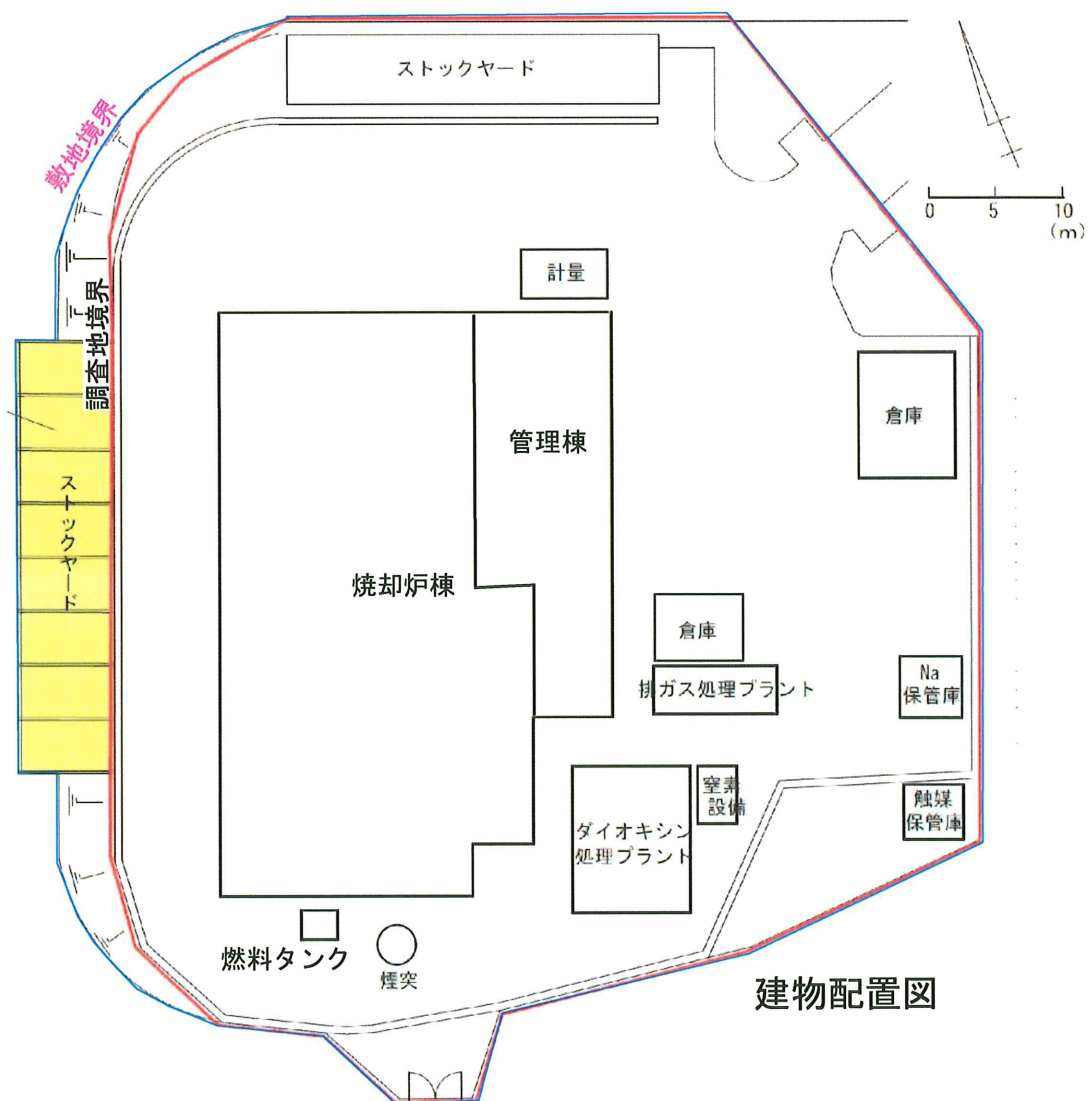


図3-1-4 施設配置図 1

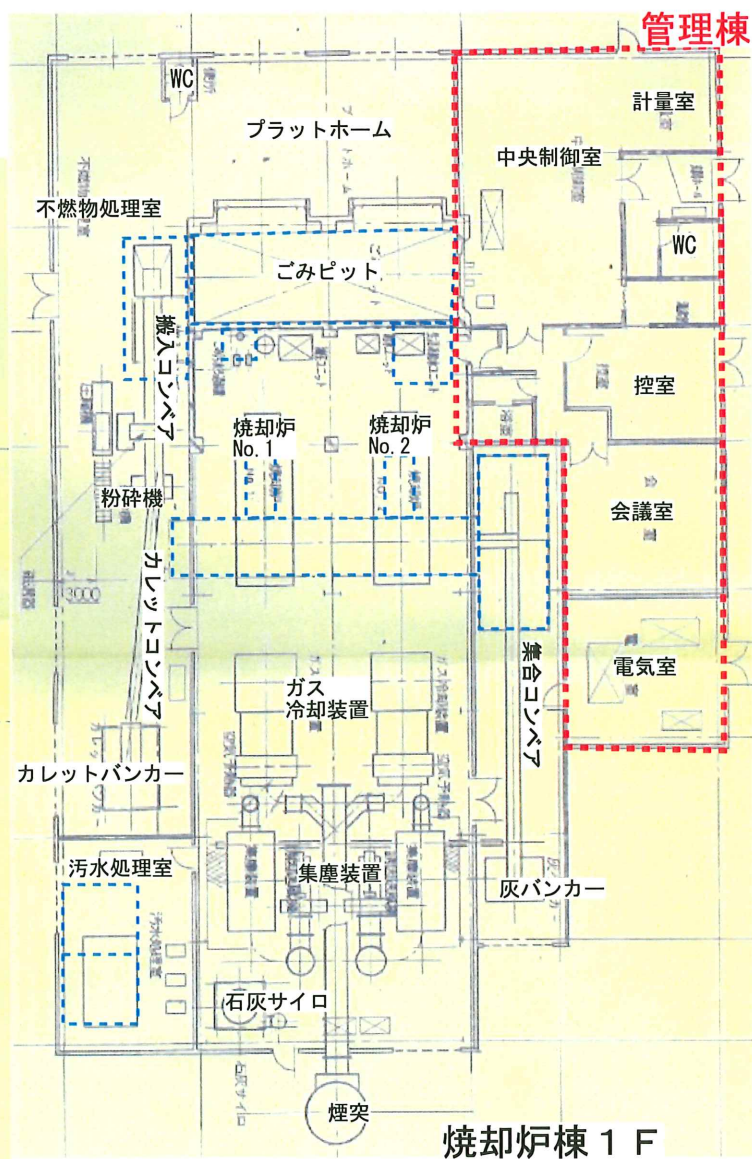
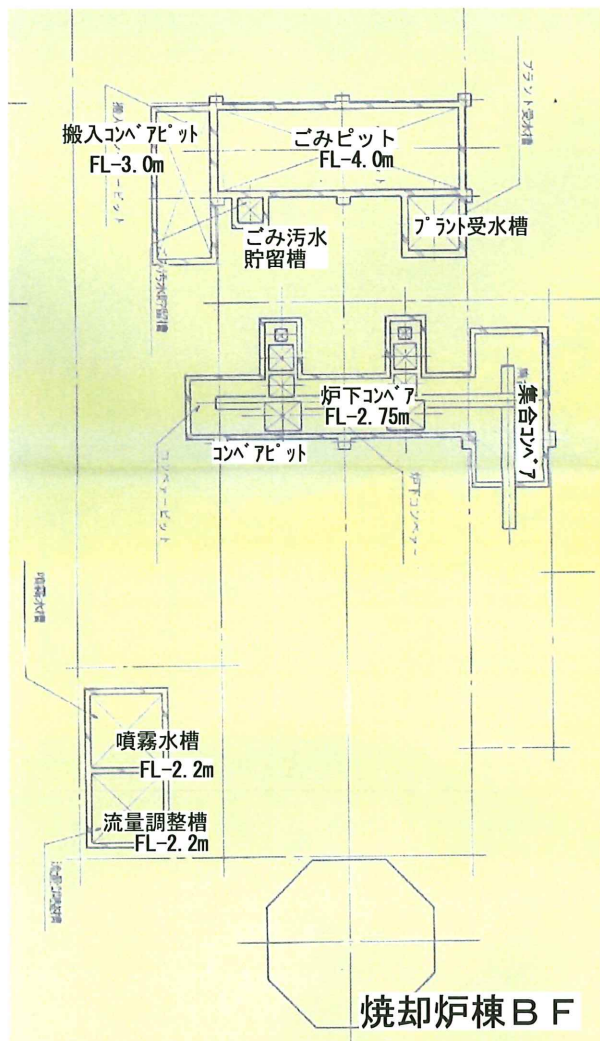


図3-1-4 施設配置図 2

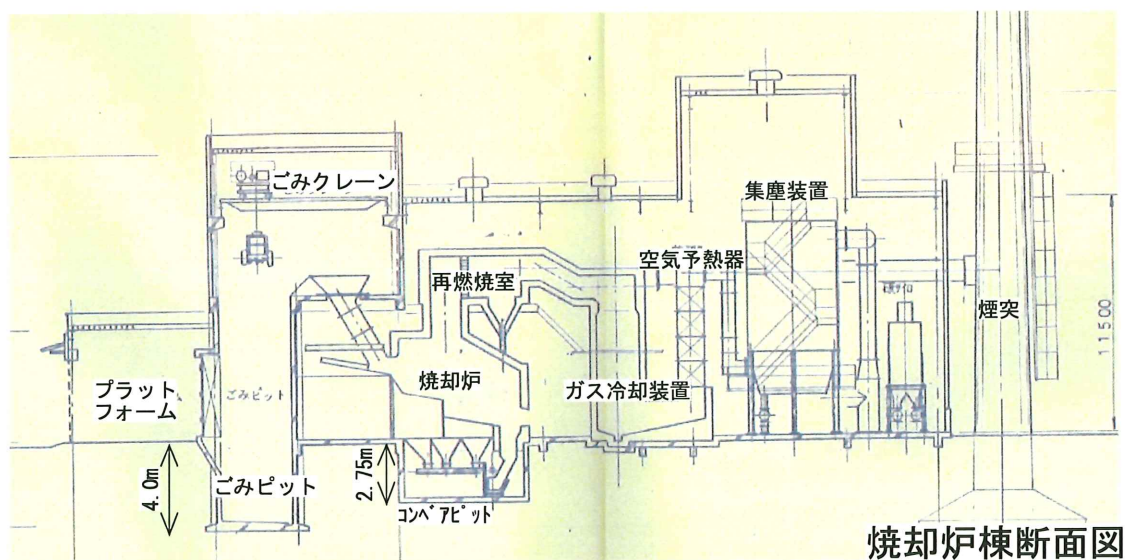
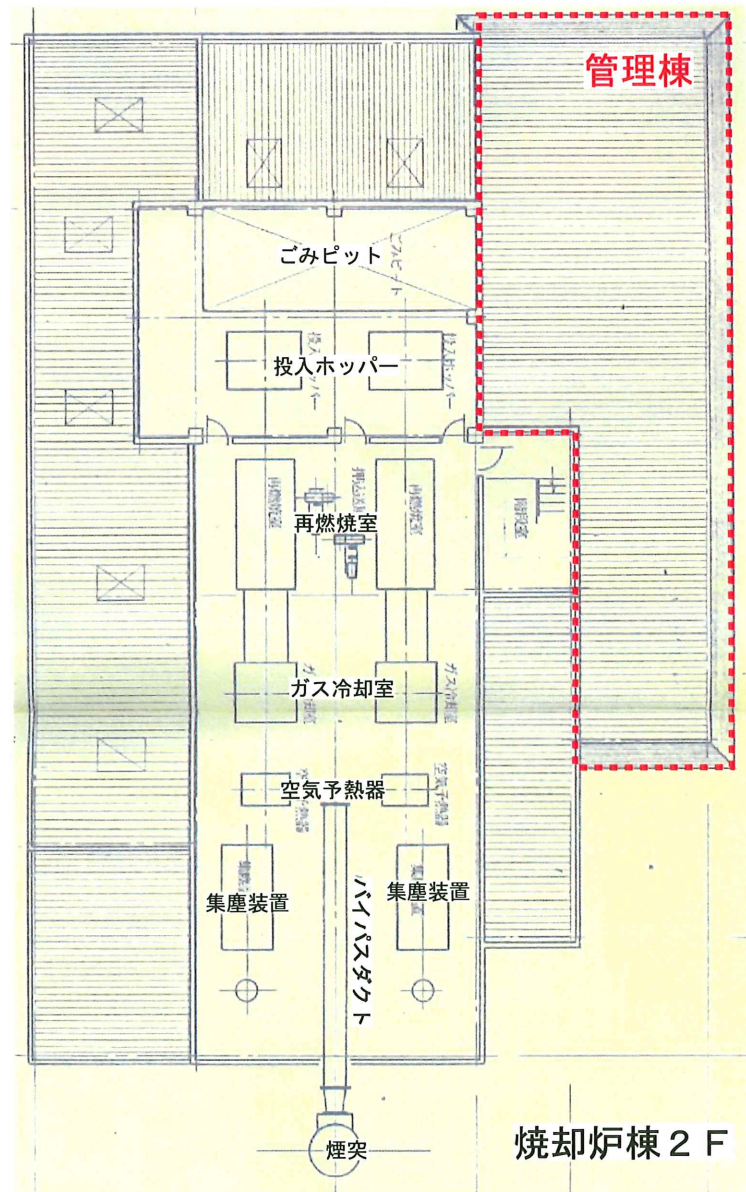


図3-1-4 施設配置図 3

(3) 排水経路

下水の排水経路を図 3-1-5 に、各施設内の排水経路を図 3-1-6 に示す。埋設配管深度はGL-0.7m～GL-0.95mであった。

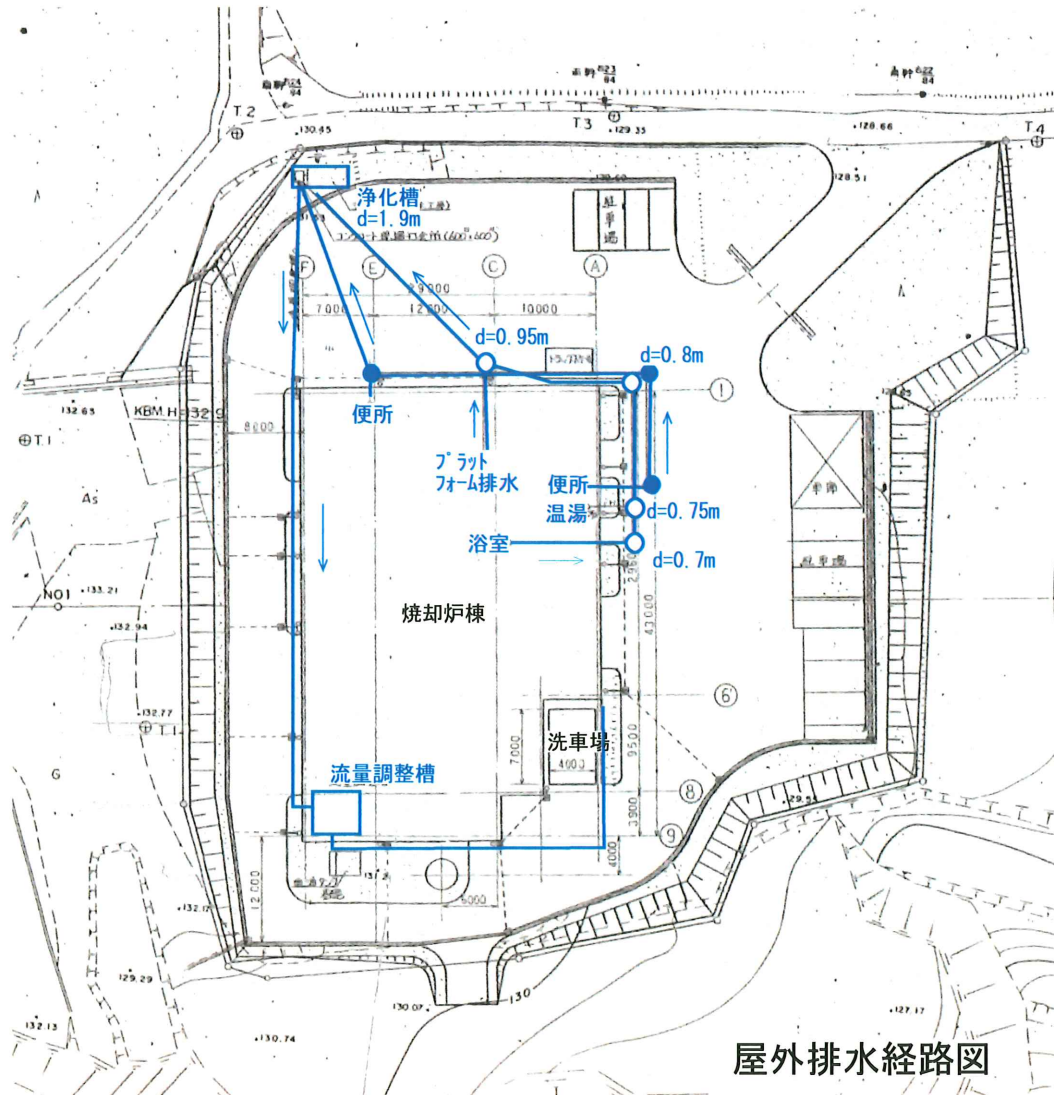
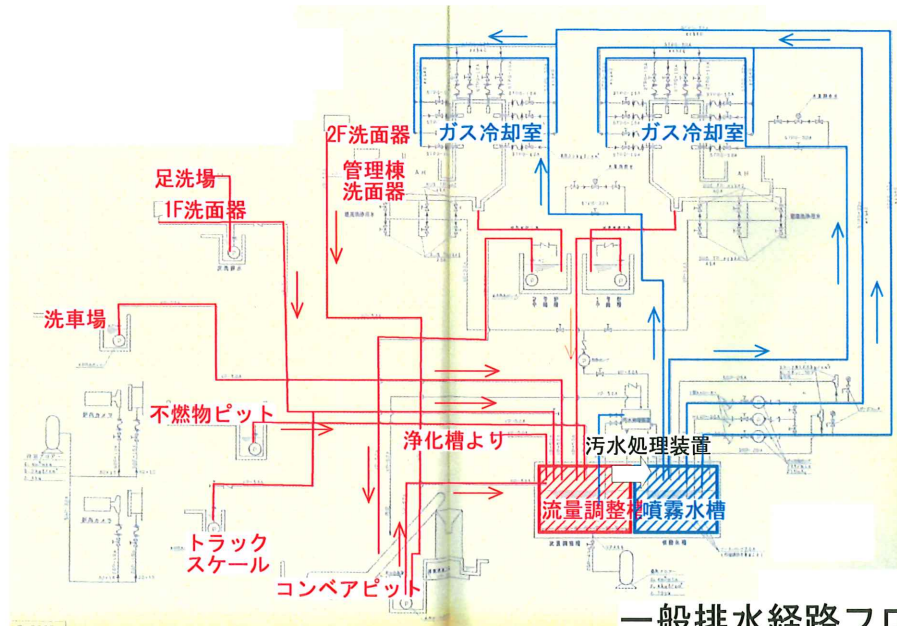


図 3-1-5 屋外排水経路図

数値は埋設深度



一般排水経路フロー

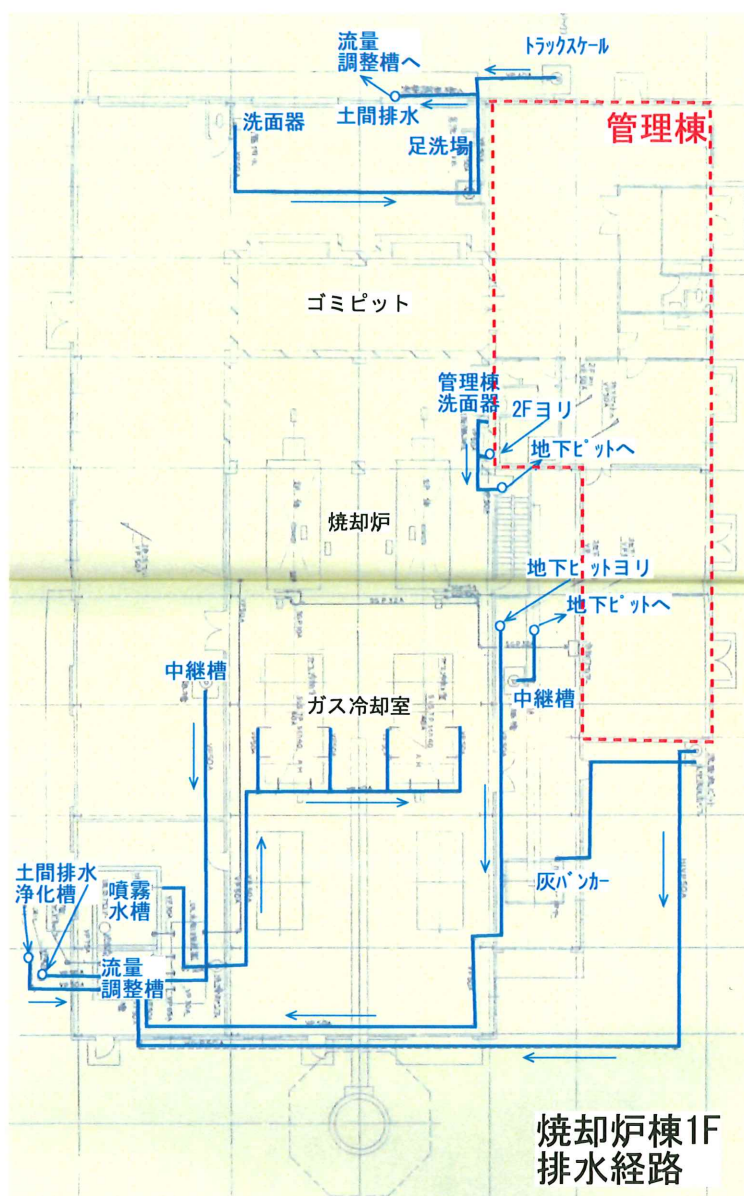
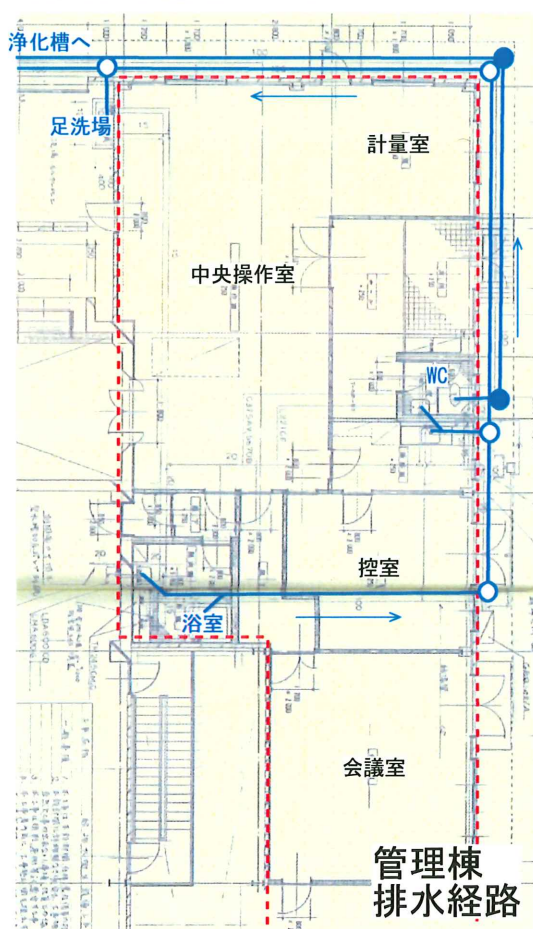
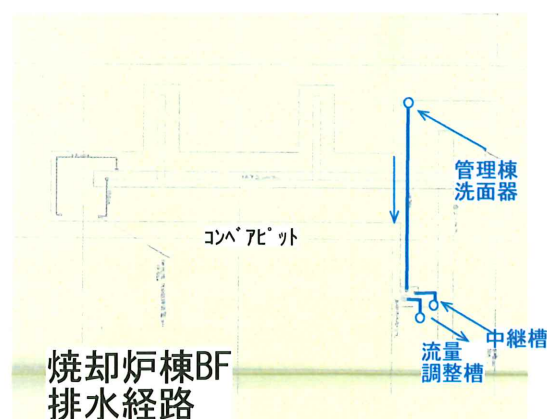
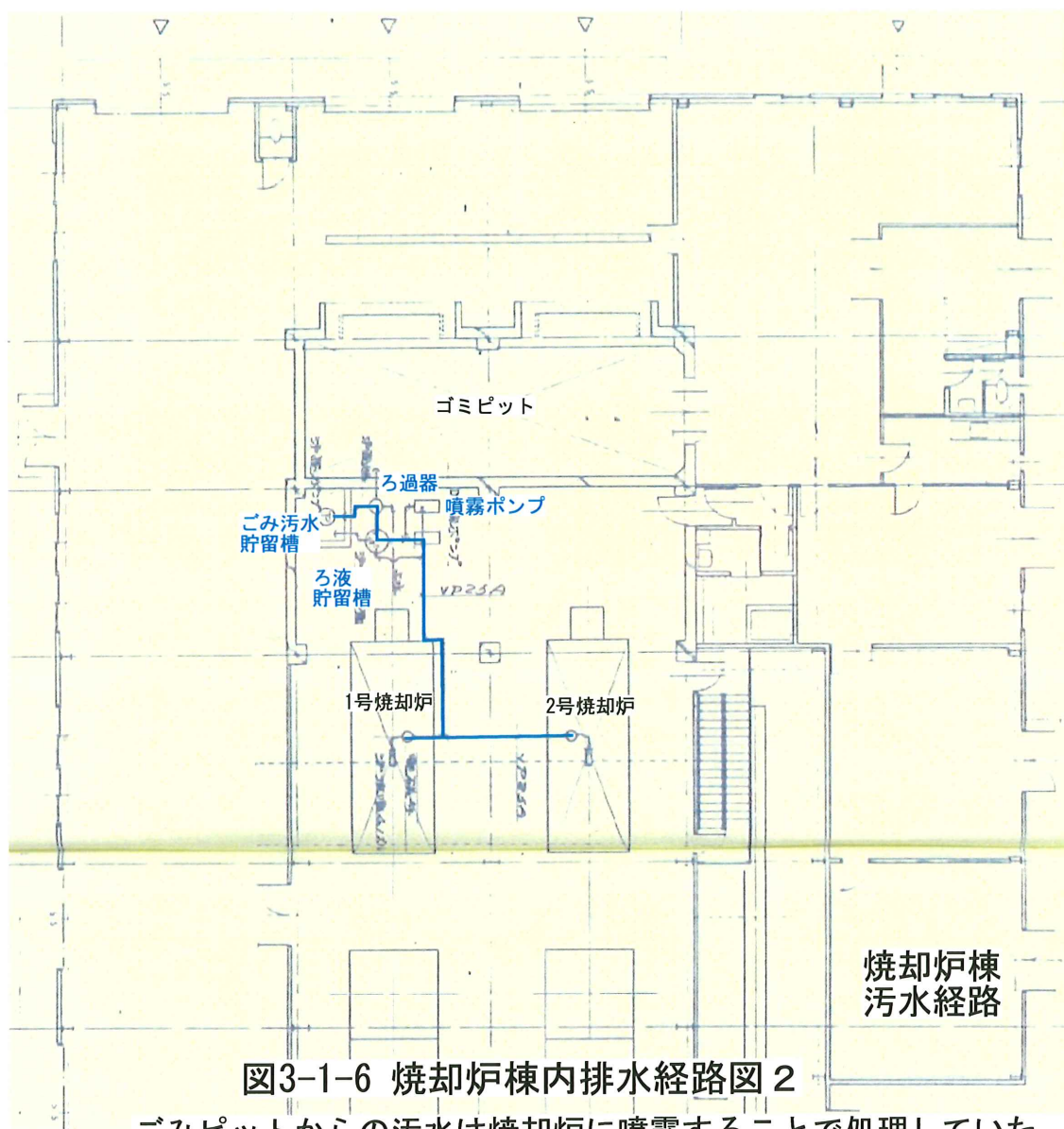
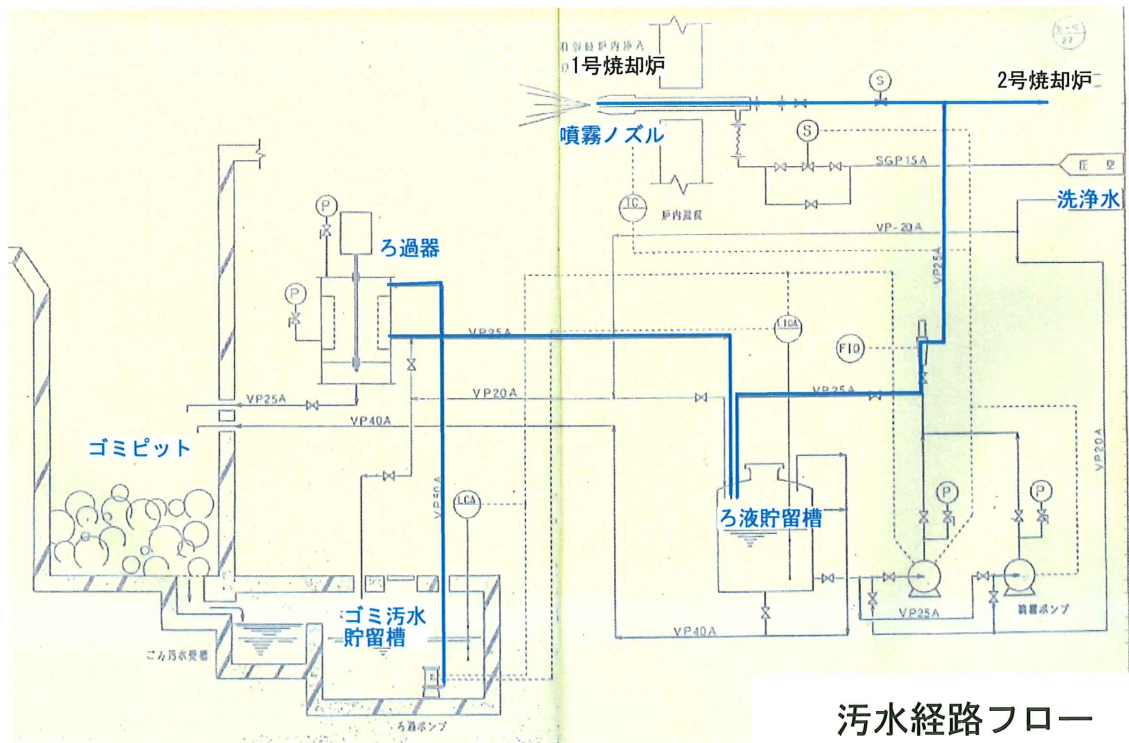


図3-1-6 焼却炉棟内排水経路図 1
排水は浄化後、ガス冷却装置の冷却に使用していた。



ゴミピットからの汚水は焼却炉に噴霧することで処理していた。

(4) 事前調査結果

本調査と並行して実施された解体施設内の付着物・堆積物(焼却灰)の分析結果から、重金属の検出が認められた。表 3-1-6 に測定結果を、図 3-1-7 には採取場所を示す。

測定結果から、第二種特定有害物質 6 項目(水銀及びその化合物、カドミウム及びその化合物、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、セレン及びその化合物)の検出が認められた。

表3-1-6 事前調査結果

(3) 重金属類調査結果(堆積物) (基準値超の箇所を示す) (mg/L)

	基準値	焼却炉		集塵機		灰バン カ	飛灰貯 留槽	乾燥灰 貯留槽	処理灰 ホッパ
		1 号炉	2 号炉	1 号炉	2 号炉				
アルキル水銀 化合物	不検出	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
水銀又は その化合物	0.005 以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0006	0.0005 未満	0.0047
カドミウム 又は その化合物	0.09 以下	0.001 未満	0.001 未満	0.050	0.19	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
鉛又は その化合物	0.3 以下	0.008	0.005 未満	0.089	0.005 未満	0.005 未満	0.098	0.005 未満	0.20
六価クロム 化合物	1.5 以下	0.12	1.8	0.20	0.26	0.015	0.005 未満	0.007	0.017
砒素又は その化合物	0.3 以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.062
セレン又は その化合物	0.3 以下	0.002 未満	0.008	0.011	0.012	0.008	0.002 未満	0.002 未満	0.016
1,4 ジオキサン	0.5 以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.005 未満	0.05 未満

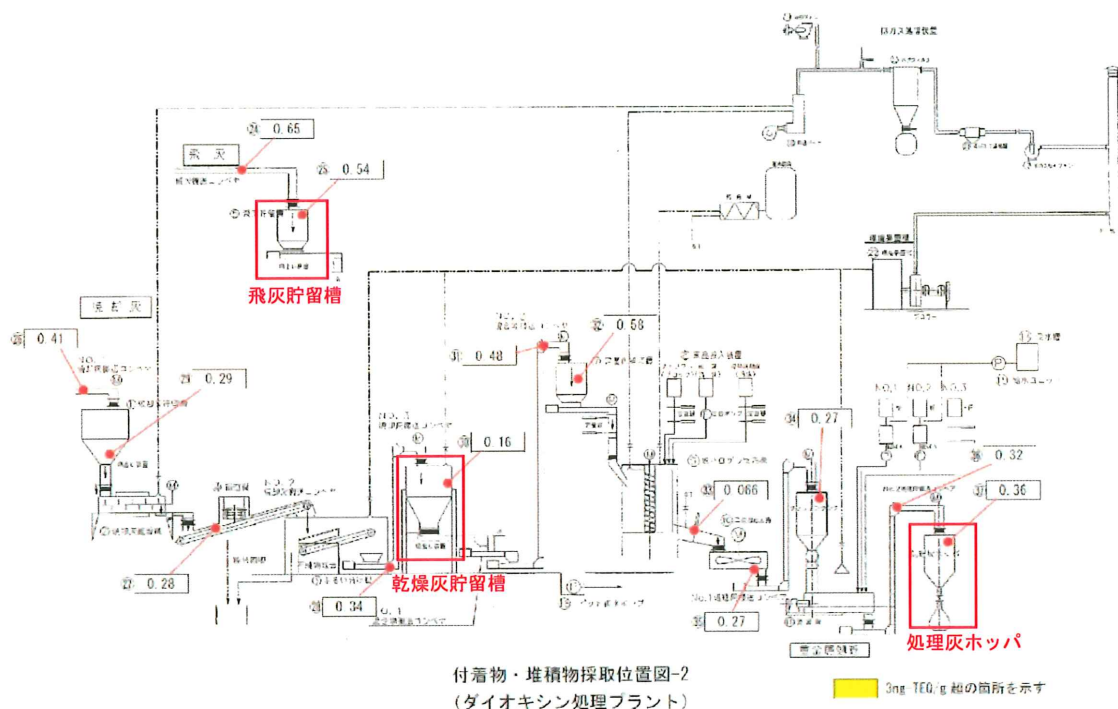
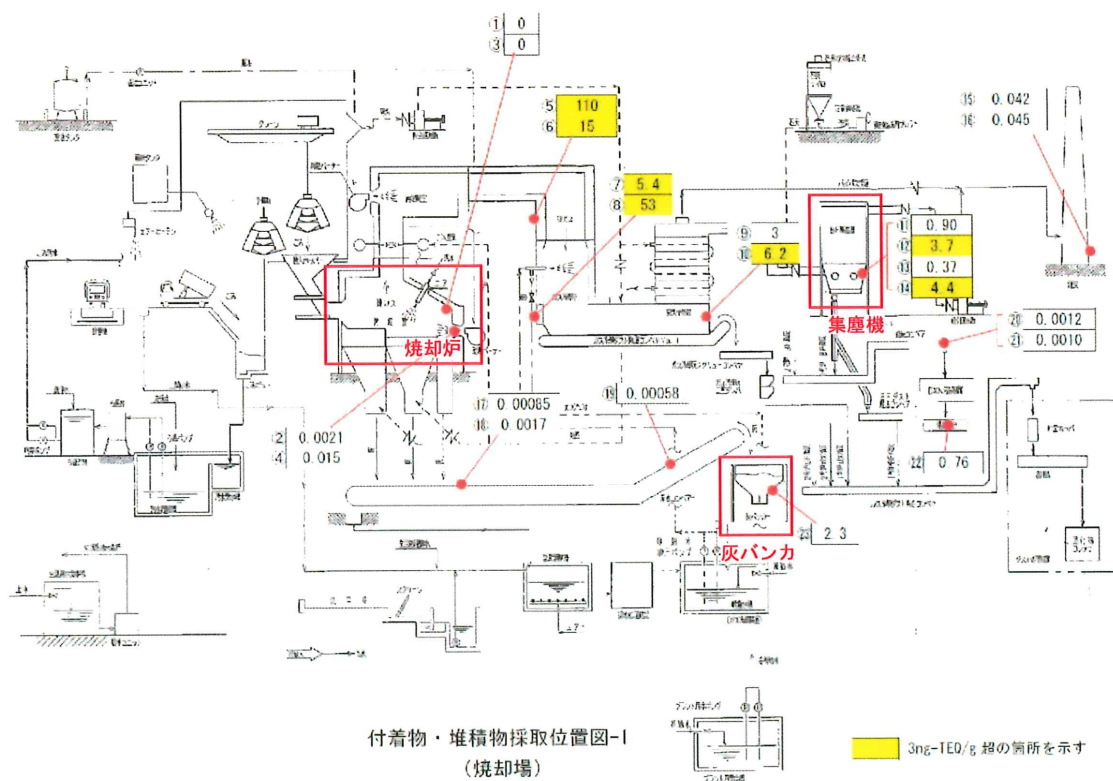


図 3-1-7 事前調査採取地点

3-1-5 要措置区域・形質変更時要届出区域の状況

鹿児島県ホームページに記載された要措置区域・形質変更時要届出区域を確認した結果、調査地周辺(調査地 25km圏内)で区域指定は認められなかった。

3-2 ヒアリング調査結果

関係者にヒアリングを行い、調査地の土地利用履歴、有害物質の取り扱いなどについて調査した。(実施日 R6/9/9) 巻末にはヒアリング調査票を添付する。

(1) 土地の利用履歴について

- ・農地・山林であった土地に平成 6 年に清掃センターが開設された。その後平成 14 年にダイオキシン処理施設が増設され、平成 28 年に休止した。
- ・当該施設では可燃ごみの焼却の他、不燃ごみの分別収集も行っていた。

(2) 届出施設について

- ・焼却場に関して水濁法、大防法、消防法、DXN特措法の届出を行っている。
- ・PRTR法において、ダイオキシン類の排出と移動を届出ている。

(3) 薬品に使用について

- ・焼却施設で重油を使用していた。
- ・排ガス、排水処理、灰処理で薬品を使用していたが、特定有害物質に該当する薬品の使用はなかった。
- ・当該施設内では分析を行っておらず、試薬の使用はなかった。

(4) 排水・廃棄物の処理について

- ・施設内の排水は処理後に冷却水として使用しており、施設外に排出していない。
- ・ごみピットの汚水は焼却炉に噴霧して処理していた。そのため排水分析は行っていない。
- ・焼却灰や、不燃ごみは施設外の処理場へ排出していた。
- ・洗車場があったが、DXN処理プラント設置に伴い隣接地に移転した。近年は使用していない。

(5) 地形変更について

- ・埋め立てやかさ上げは行っていない。

(6) 土壌汚染調査の実施履歴について

- ・実施履歴はない。

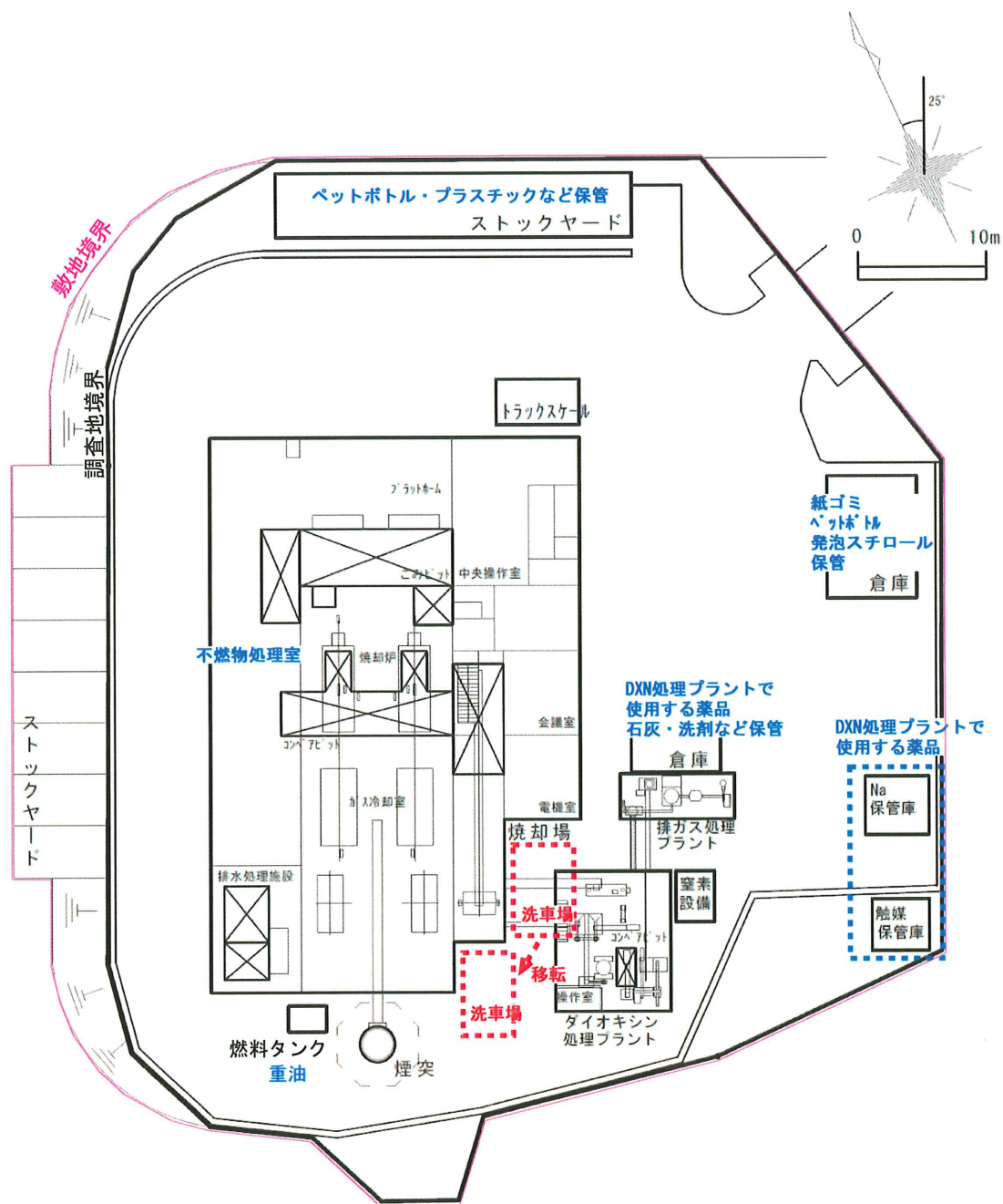


図 3-2-1 ヒアリング調査平面図

3-3 現地踏査結果

調査地の現況について踏査を行い、以下に状況をまとめた。(実施日 R6/9/9)
 現地状況を写真1～27に、撮影位置図を図3-3-1に示す。

- ・ 現地は清掃工場で、可燃ごみの焼却と不燃ごみの分別収集を行っていた。現在は休止中である。
- ・ 不燃物処理室では蛍光灯、電池(Ni-Cd電池など)、スプレー缶なども収集していた。
- ・ 現地は中山間地域の平坦地であった。大規模な切り土や盛土は認められなかった。
- ・ 地表面の変色、油漏れ、異臭、廃棄物の放置など土壌汚染が疑われる状況は確認できなかった。

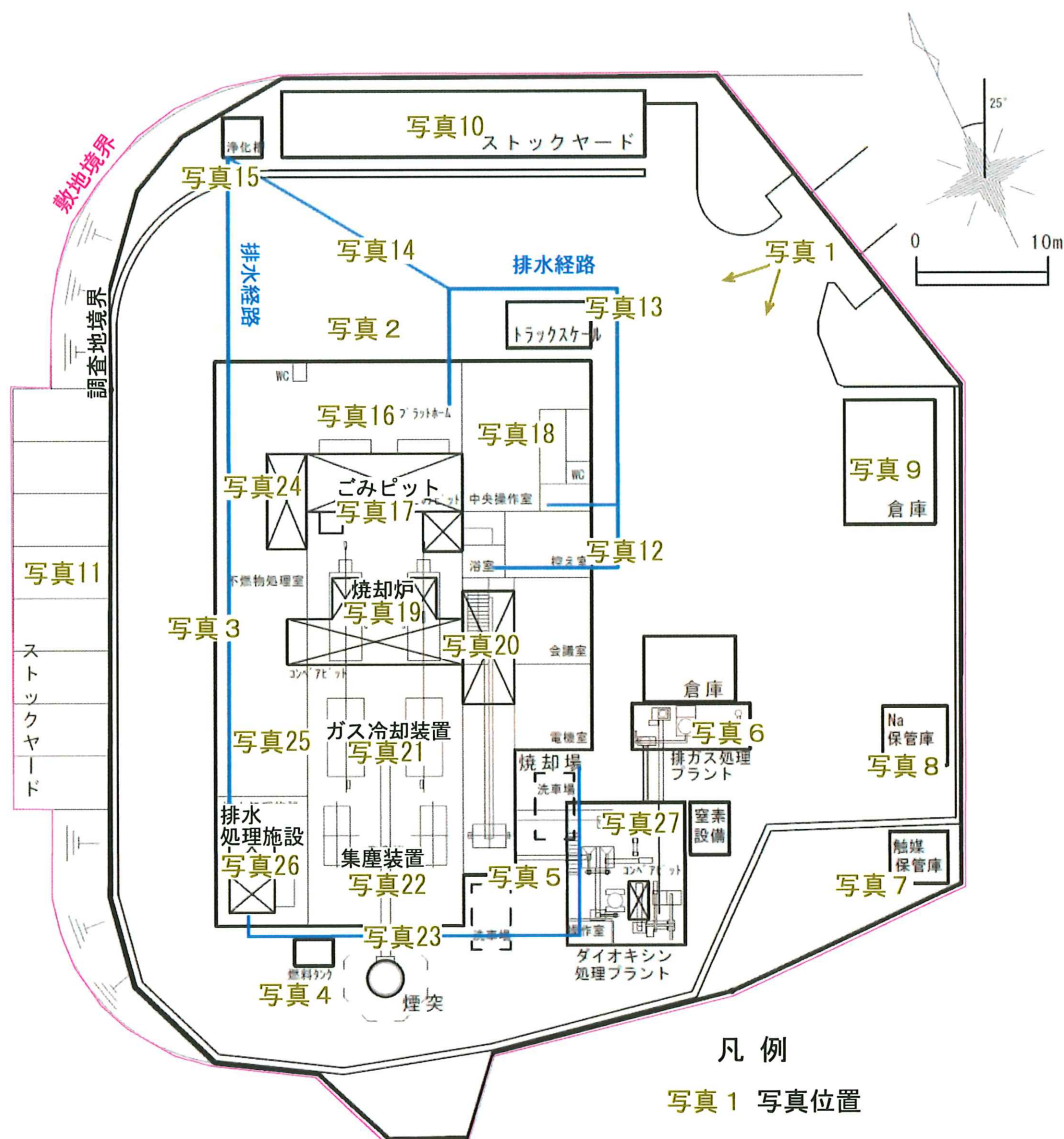


図 3-3-1 写真位置図

現地踏査写真



写真1 焼却炉棟／管理棟



写真2 焼却炉棟北側
左がプラットフォーム入口
右が不燃物処理入口である。



写真3 焼却炉棟西側



写真4 燃料タンク
地上式タンクで重油を保管していた。



写真5 洗車場
パッカー車などの洗車を行う。
DXN処理棟建設に伴い移設した。

現地踏査写真



写真6 排ガス処理プラント

ダイオキシン処理の排ガス処理プラント
隣接する倉庫には石灰などの薬品を保管していた。



写真7 触媒保管庫

ダイオキシン処理で使用する触媒を保管
していた。



写真8 Na保管庫

ダイオキシン処理で使用するナトリウムを
保管していた。



写真9 倉庫

紙ゴミやペットボトルなどの
資源ゴミを保管していた。



写真10 北側ストックヤード

ペットボトル、プラスチックなど
を保管していた。



写真11 西側ストックヤード

ダンボール、布などを分別保管している。
(調査地外)

現地踏査写真



写真12 排水経路 1

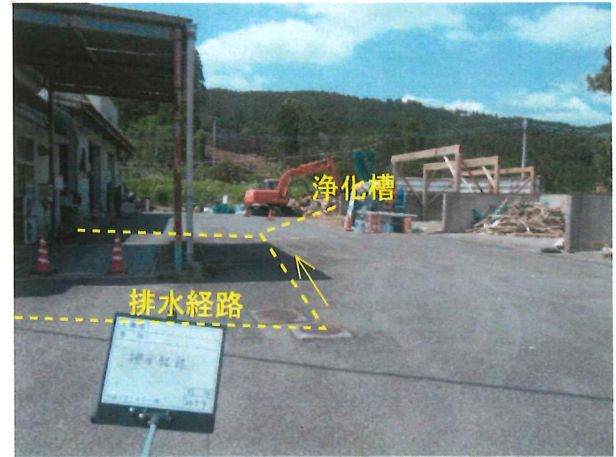


写真13 排水経路 2



写真14 排水経路 3

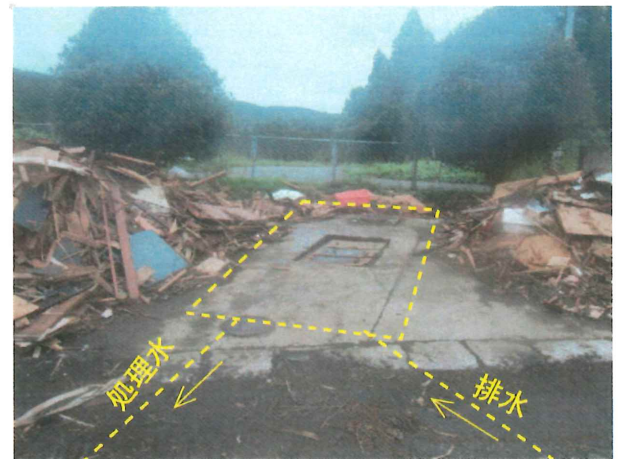


写真15 浄化槽

浄化槽で浄化した水は排水処理室の水槽にポンプで圧送され、冷却水として使用する。



写真16 プラットホーム



写真17 ごみピット

パッカー車で運ばれた可燃ごみはプラットホームからゴミピットへ投下される。

現地踏査写真



写真18 中央制御室



写真19 焼却炉

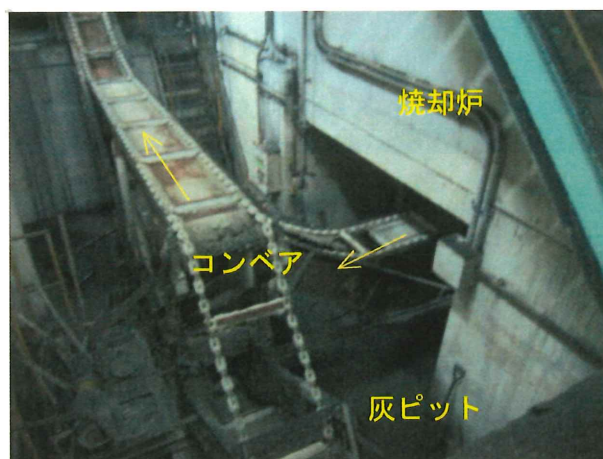


写真20 灰ピット

焼却灰は焼却炉下にある灰ピットの
コンベアで運ばれる。



写真21 ガス冷却装置



写真22 集塵装置



写真23 煙道

現地踏査写真



写真24 不燃物処理室
不燃ゴミを分別回収していた。



写真24 不燃物処理室
Ni-Cd電池の収集



写真25 カレットコンベア
ガラスビンを破碎してカレットにしている。



写真26 排水処理室
施設内の排水を処理して、冷却水として利用している。



写真26 排水処理室
流量調整槽に排水は貯められ、処理後の水は噴霧水槽に送られる。
噴霧水槽の水はガス冷却装置の冷却水に利用する。

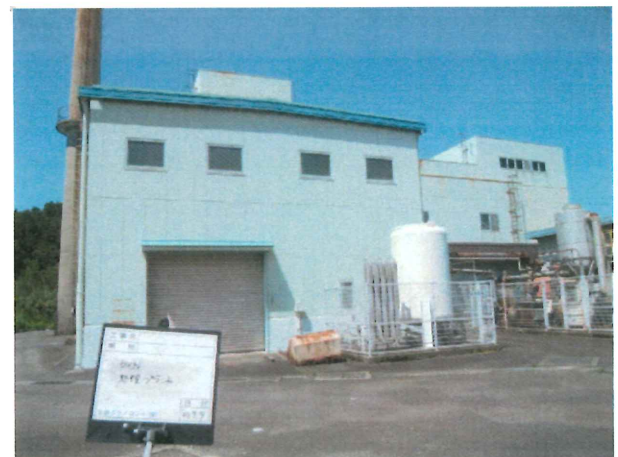


写真27 ダイオキシン処理プラント

現地踏査写真



写真27 ダイオキシン処理プラント
脱ハロゲン反応機



写真27 ダイオキシン処理プラント
灰貯留槽

4. 評価

4-1 まとめ

(1) 既存資料調査結果

調査地は農地・山林で、川辺町(現 南九州市)の所有となった後、清掃センターが建設され、一般ごみの処理を行っていた土地であった。

届出施設の資料からは特定有害物質の使用は認められなかった。排ガス、排水処理、灰処理で薬品を使用していたが、特定有害物質に該当する薬品の使用はなかった。

本調査と並行して行われた事前調査にて、焼却灰の分析結果から第二種特定有害物質 6 項目(水銀及びその化合物、カドミウム及びその化合物、鉛及びその化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、セレン及びその化合物)の検出が認められた。

(2) ヒアリング調査結果

清掃センターは平成 6 年から今年まで稼働していた。届出施設としては、DXN特措法、水濁法、大防法、消防法の施設があった。

排水は全て冷却水として利用しており、施設外に排出していない。そのため排水分析を行っていない。

当該の清掃センターでは分析を行っておらず、試薬の使用もなかった。

清掃センター開設以降、埋立やかさ上げは行っていない。

(3) 現地踏査結果

現地は中山間地域の平坦地であった。不燃物ごみについては蛍光灯、電池、スプレー缶などの取り扱いもしていた。

地表面の変色、油漏れ、異臭、廃棄物の放置など土壤汚染が疑われる状況は確認できなかった。

4-2 土壤汚染のおそれが生じた時期

土壤汚染のおそれが生じた時期は、清掃センター稼働期間である平成6年～令和6年であると判断した。おそれの由来は「人為等に由来する汚染のおそれ」となる。
表4-2-1に結果をまとめる。

表4-2-1 年代別の工場敷地の利用履歴等調査結果

年代	土地の利用方法	土壤汚染の可能性の所見	根拠資料	汚染のおそれの由来
昭和22年～平成6年	農地・山林	有害物質の使用がないため、汚染のおそれはない。	空中写真 住宅地図	—
平成6年～令和6年	川辺清掃センター	有害物質を含んでいる可能性のあるごみの取り扱いをしていたため、汚染のおそれが否定できない。 焼却灰の分析で、有害物質の検出が認められている。 項目：第一種・第二種特定有害物質	届出資料 ヒアリング調査	人為等に由来する汚染のおそれ

4-3 土壤汚染のおそれの評価

汚染のおそれの対象となる有害物質の項目は第一種特定有害物質11項目と第二種特定有害物質8項目と判断した。

第一種特定有害物質はスプレー缶などの不燃物ゴミの取扱があることから有機溶剤の混入があると考え11項目とした(1,3-ジクロロプロペンは農薬成分のため対象外とした)

第二種特定有害物質については、焼却灰の分析結果から水銀及びその化合物、カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、セレンの6項目が検出されている点と、一般廃棄物を取り扱っている点から、ふっ素、ほう素を含めた8項目を調査対象とした(シアンは管理が厳しい薬品であるため対象外とした)。

第三種特定有害物質は管理が厳しく一般廃棄物に混入する可能性が極めて低いと考え対象外とした。

4-3-1 汚染のおそれが生じた場所の位置：【地表面】

土壤汚染のおそれの評価を表4-3-1に示す。

表4-3-1 土壤汚染のおそれの評価(地表面) 1

対象範囲	評価	対象有害物質	土壤汚染のおそれの評価
焼却炉棟、煙突	焼却灰の分析で有害物質が認められており、可燃ごみに起因する土壤汚染のおそれが否定できない。	第二種特定有害物質 8項目	土壤汚染の存在する おそれが比較的多いと 認められる土地
焼却炉棟 (不燃物処理室)	不燃物処理室では、有害物質の含有する可能性のあるごみの収集も行っていたため、土壤汚染のおそれが否定できない。	第一種特定有害物質 11項目 第二種特定有害物質 8項目	土壤汚染の存在する おそれが比較的多いと 認められる土地
ダイオキシン処理プラント	焼却灰の分析で有害物質が認められており、可燃ごみに起因する土壤汚染のおそれが否定できない。	第二種特定有害物質 8項目	土壤汚染の存在する おそれが比較的多いと 認められる土地

表4-3-1 土壌汚染のおそれの評価(地表面) 2

対象範囲	評価	対象有害物質	土壌汚染のおそれの評価
排ガス処理プラント	焼却灰の分析で有害物質が認められており、可燃ごみに起因する土壌汚染のおそれが否定できない。	第二種特定有害物質 8項目	土壌汚染の存在する おそれが比較的多いと認められる土地
洗車場	焼却灰の分析で有害物質が認められており、可燃ごみに起因する土壌汚染のおそれが否定できない。 不燃ごみについても有害物資の含有が疑われるものを取り扱っていた。	第一種特定有害物質 11項目 第二種特定有害物質 8項目	土壌汚染の存在する おそれが比較的多いと認められる土地
上記以外の調査地	有害物質の使用や貯蔵の履歴はないものの、土壌汚染の可能性のある上記範囲と、その用途が独立しているとは言えない土地である。	第一種特定有害物質 11項目 第二種特定有害物質 8項目	土壌汚染の存在する おそれが少ないと認められる土地

項目ごとの土壌汚染のおそれの各区分を図 4-3-1 ～図 4-3-2 にを示す。

(1) 第一種特定有害物質 11 項目 (1, 3-ジクロロプロペンを除く)

1) 「土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地」の範囲

焼却炉棟(不燃物処理室)、洗車場

2) 「土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地」の範囲

上記以外の範囲

3) 「土壌汚染が存在するおそれがないと認められる土地」の範囲

該当範囲無し

(2) 第二種特定有害物質 8 項目 (シアン化合物を除く)

1) 「土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地」の範囲

焼却炉棟、煙突、洗車場、ダイオキシン処理プラント、排ガス処理プラント

2) 「土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地」の範囲

上記以外の範囲

3) 「土壌汚染が存在するおそれがないと認められる土地」の範囲

該当範囲無し

凡 例

- 敷地境界
- 調査範囲
- 排水経路
- 土壌汚染の存在するおそれ
比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染の存在するおそれが
少ないと認められる土地
- 土壌汚染の存在するおそれが
ないと認められる土地

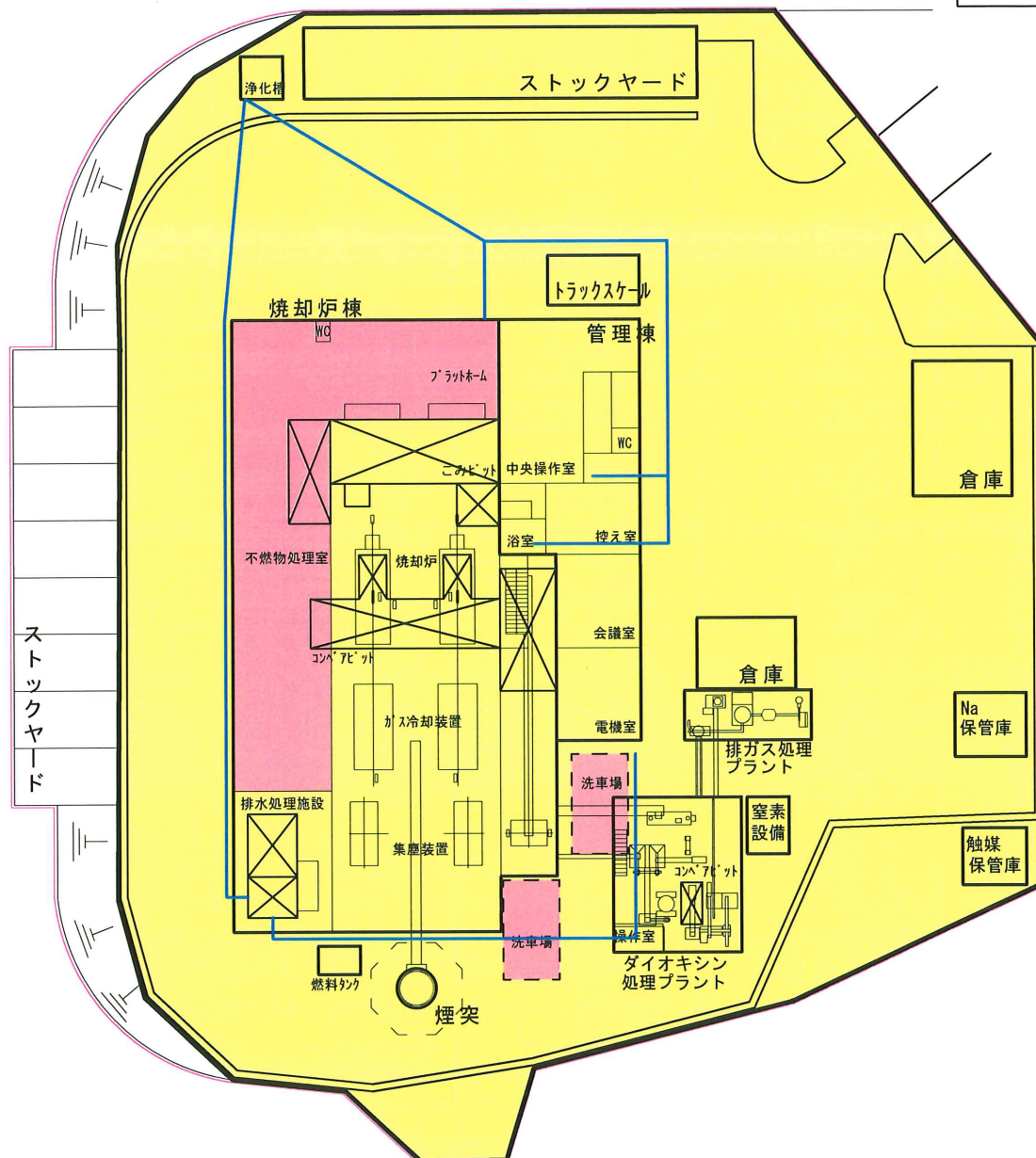
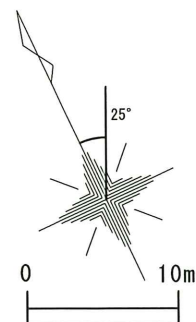


図4-3-1 土壌汚染のおそれの区分の分類

土壌汚染のおそれが生じた場所の位置：地表面

対象項目：第一種特定有害物質 11項目

凡 例

- 敷地境界
- 調査範囲
- 排水経路
- 土壌汚染の存在するおそれ
比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染の存在するおそれが
少ないと認められる土地
- 土壌汚染の存在するおそれが
ないと認められる土地

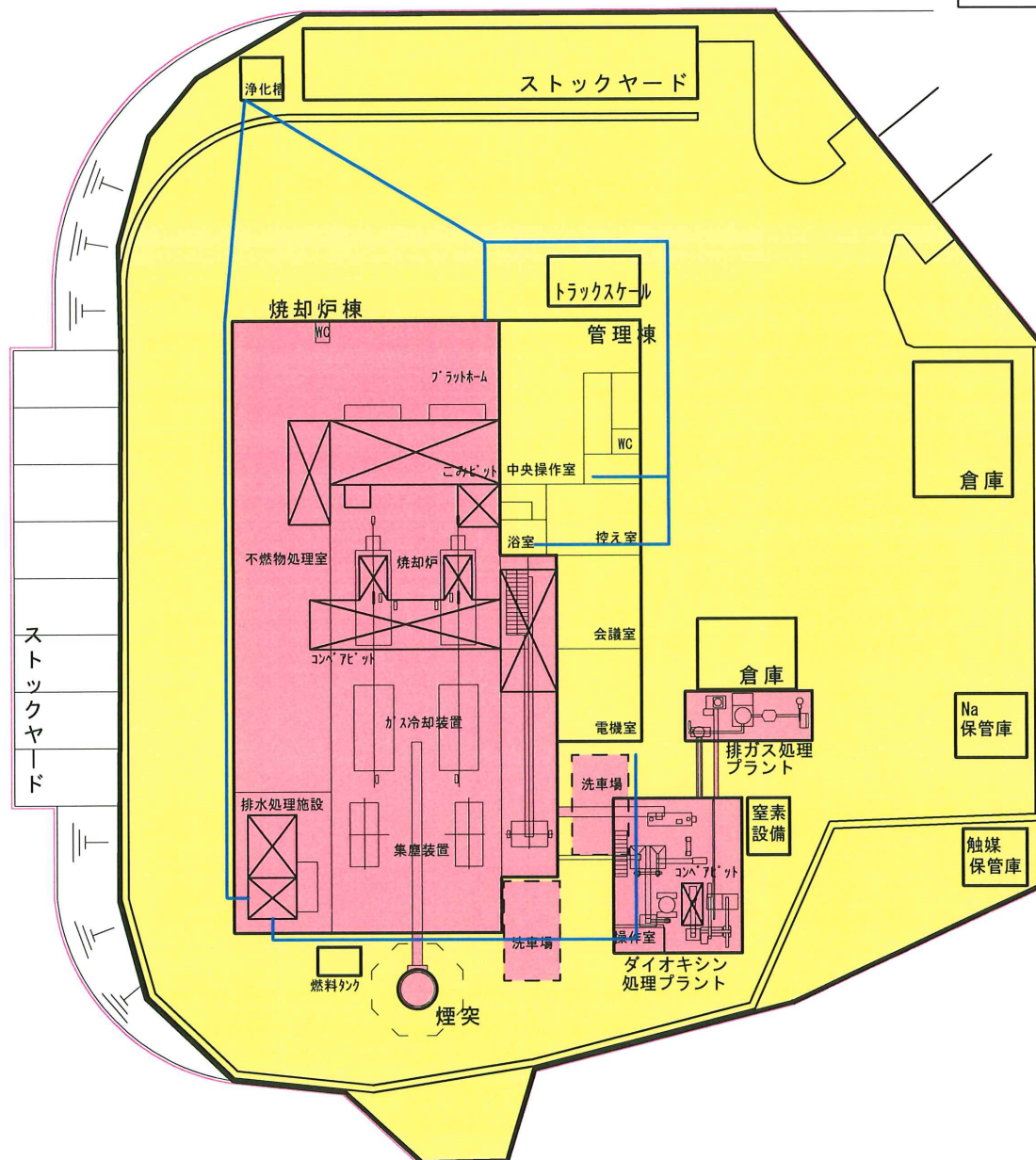
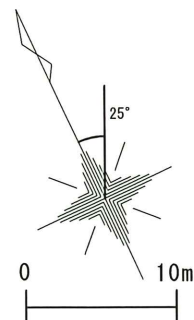


図4-3-2 土壌汚染のおそれの区分の分類

土壌汚染のおそれが生じた場所の位置：地表面

対象項目：第二種特定有害物質 8項目

4-3-2 汚染のおそれが生じた場所の位置：【地下ピット・地下配管の底部】

土壤汚染のおそれの評価を表 4-3-2 に示す。

表4-3-2 土壤汚染のおそれの評価(地下ピット・地下配管底部)

対象範囲	評価	対象有害物質	土壤汚染のおそれの評価
焼却炉棟(ピット)	焼却灰の分析で有害物質が認められており、可燃ごみに起因する土壤汚染のおそれが否定できない。	第二種特定有害物質 8項目	土壤汚染の存在する おそれが比較的多いと認められる土地
焼却炉棟 (不燃物処理室・ 排水処理施設の ピット)	不燃物処理室では、有害物質の含有する可能性のあるごみの収集も行っていたため、土壤汚染のおそれが否定できない。	第一種特定有害物質 11項目 第二種特定有害物質 8項目	土壤汚染の存在する おそれが比較的多いと認められる土地
ダイオキシン処理プラント(ピット)	焼却灰の分析で有害物質が認められており、可燃ごみに起因する土壤汚染のおそれが否定できない。	第二種特定有害物質 8項目	土壤汚染の存在する おそれが比較的多いと認められる土地
焼却炉棟・洗車場からの排水経路・浄化槽	焼却灰の分析で有害物質が認められており、可燃ごみに起因する土壤汚染のおそれが否定できない。 不燃ごみについても有害物質の含有が疑われるものを取り扱っていた。	第一種特定有害物質 11項目 第二種特定有害物質 8項目	土壤汚染の存在する おそれが比較的多いと認められる土地
上記以外の調査地			土壤汚染の存在する おそれがないと認められる土地

項目ごとの土壤汚染のおそれの各区分を図 4-3-3 ～図 4-3-4 にを示す。

(1) 第一種特定有害物質 11 項目 (1, 3-ジクロロプロペンを除く)

1) 「土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地」の範囲

不燃物処理室内のピット、排水処理室水槽、地下配管の排水経路、浄化槽

2) 「土壤汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地」の範囲

該当範囲無し

3) 「土壤汚染が存在するおそれがないと認められる土地」の範囲

該当範囲無し

(2) 第二種特定有害物質 8 項目 (シアン化合物を除く)

1) 「土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地」の範囲

焼却炉棟内の地下ピット、排水処理室水槽、地下配管の排水経路、浄化槽
ダイオキシン処理プラント内のピット

2) 「土壤汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地」の範囲

該当範囲無し

3) 「土壤汚染が存在するおそれがないと認められる土地」の範囲

該当範囲無し

以上

凡 例

- 敷地境界
- 調査範囲
- 排水経路
- 土壌汚染の存在するおそれ
比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染の存在するおそれが
少ないと認められる土地
- 土壌汚染の存在するおそれが
ないと認められる土地

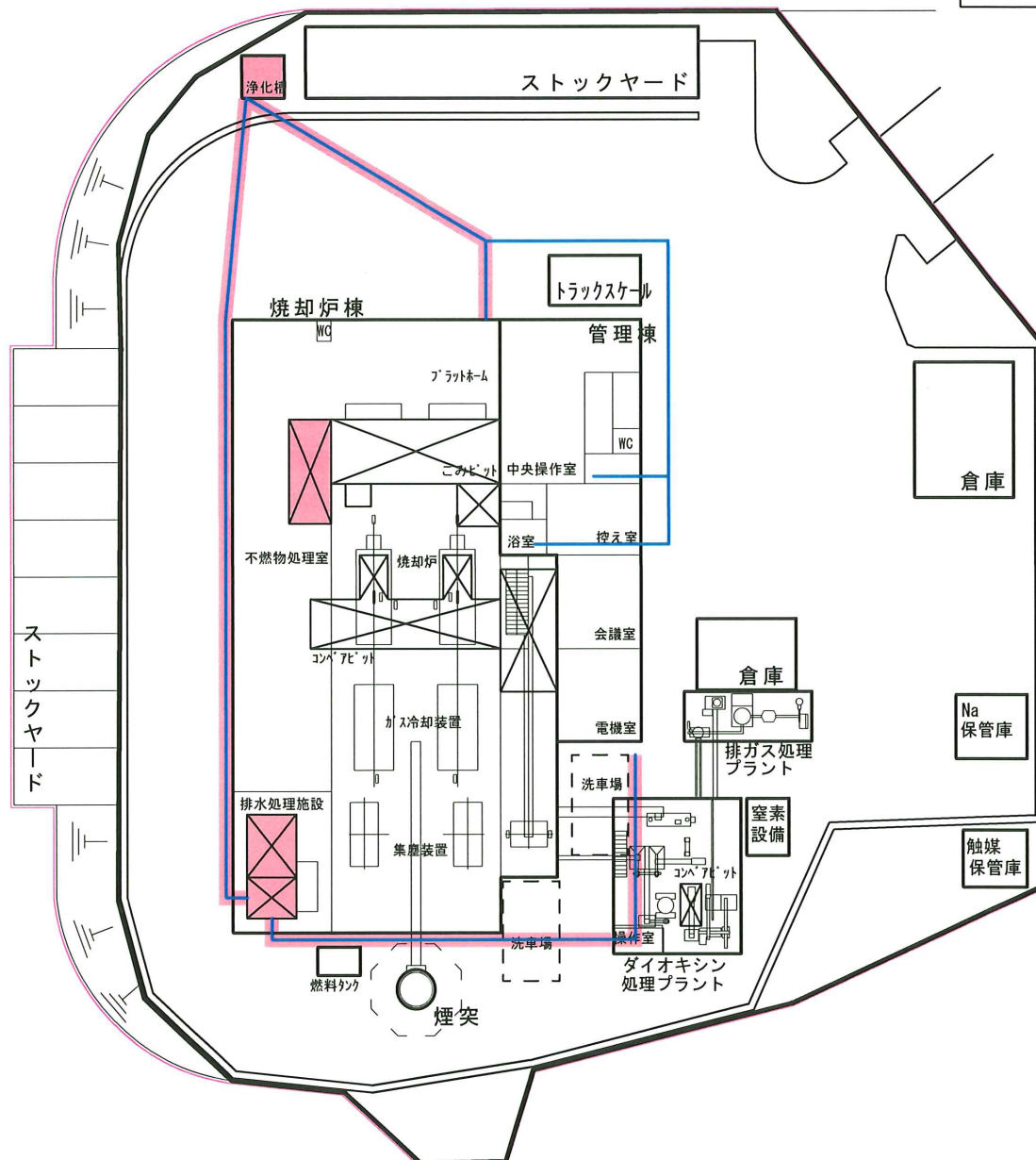
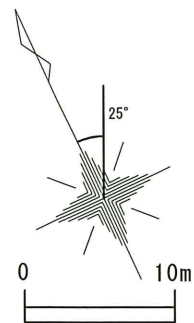


図4-3-3 土壌汚染のおそれの区分の分類

土壌汚染のおそれが生じた場所の位置

：地下ピット・地下配管底部

対象項目：第一種特定有害物質 11項目

凡 例

- 敷地境界
- 調査範囲
- 排水経路
- 土壌汚染の存在するおそれ
比較的多いと認められる土地
- 土壌汚染の存在するおそれ
少ないと認められる土地
- 土壌汚染の存在するおそれ
ないと認められる土地

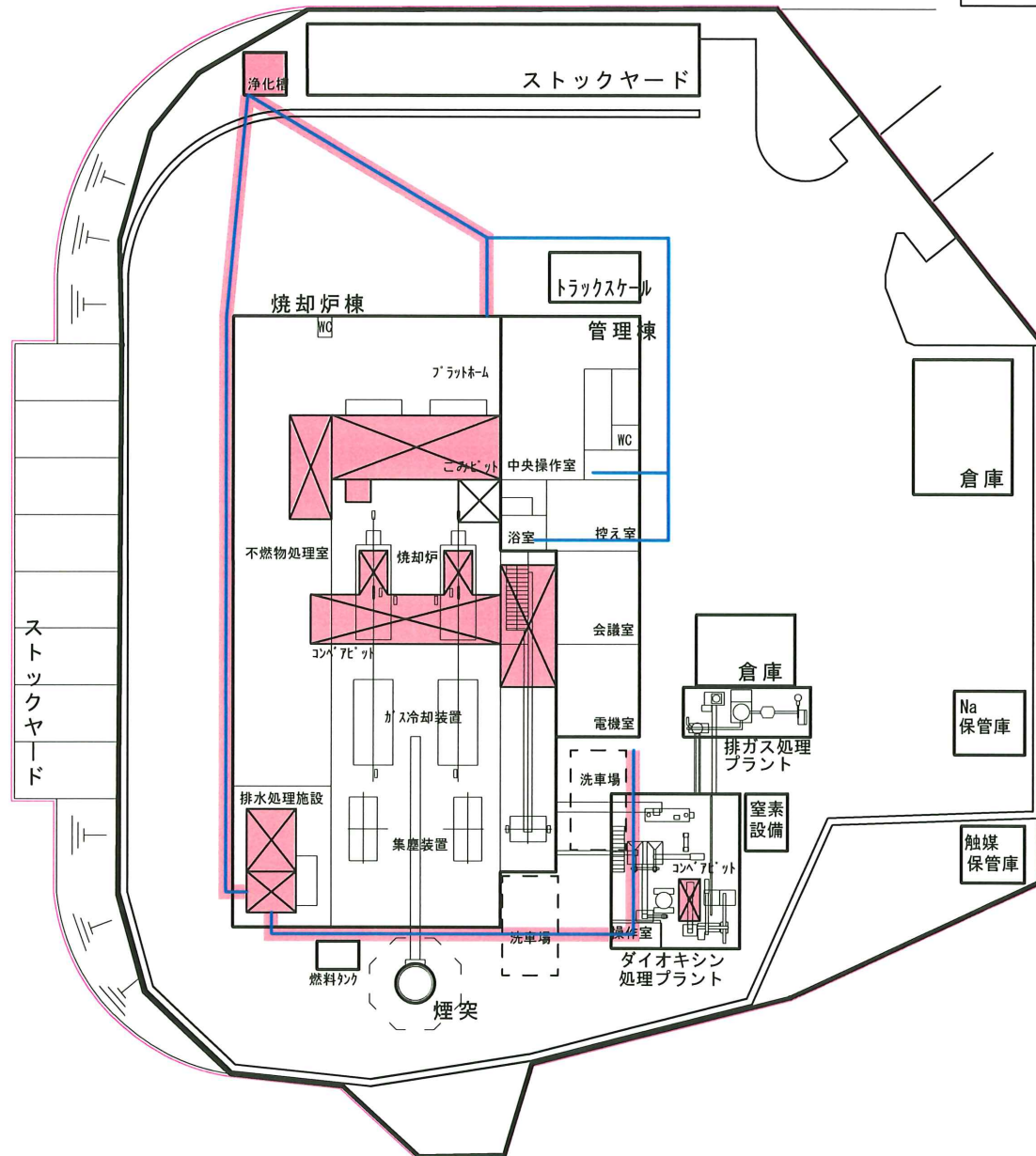
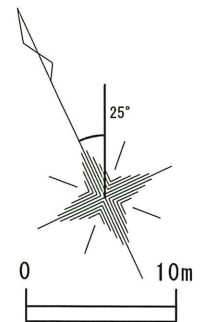


図4-3-3 土壌汚染のおそれの区分の分類

土壌汚染のおそれが生じた場所の位置
 : 地下ピット・地下配管底部
 対象項目：第二種特定有害物質 8項目